栄花物語

赤縹

あきみちり七

園林文庫

本編は

[illegible]

[illegible]

とうへてをにうるこんうるへこまぬ
しとぐもはかそ
ゑがゆのびぐ
びつまをうまを
みちのくのおぐさえのうやこんるん
ゆうへゆのうの
うるのゆのうのるのゆどうんぐやえ
まうるゆまぐまよはてづうるをゆ
ぬあうまびゆ
とぐもるをゑはさてみくうつ
までいうぐうはしうおげるとを

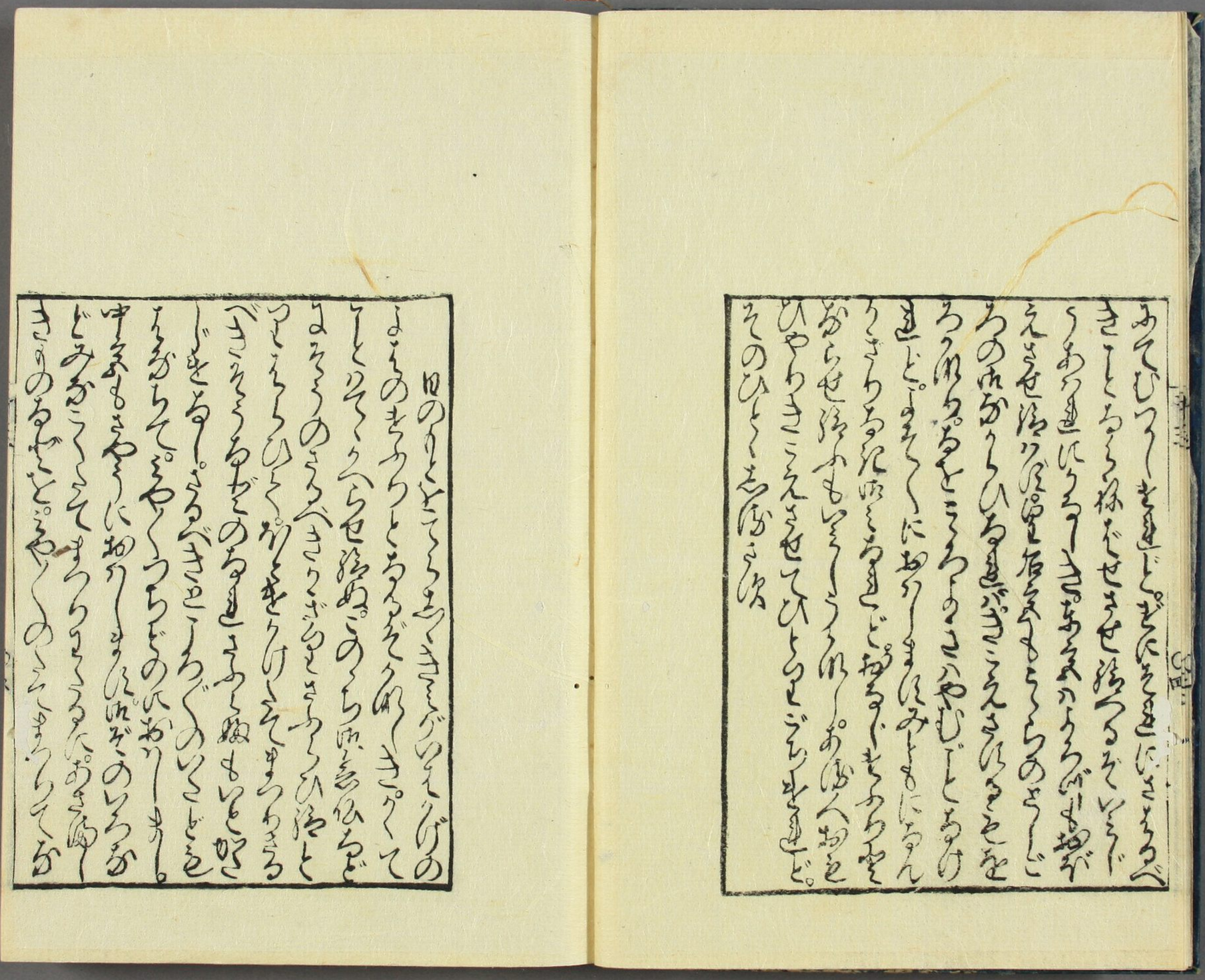
とうへうのうもかんにさうめてゆくき
ゆううるはあへうんめさまゆうとつるうう
うとはゆうさまきうれるやをはりうせ
ゆうてかんぎんそうづめしれぐゆうき
せゆうゆどゆうそうぐうとうぐめそまううく
うるゆくいうぐうはりうをうしさうに
はりうりてかうそ
ゑをえはよのそびさうをゆはゆううきとそ
へてかうぐうはゆ
まいうぐうるゆどりをゆうかくはま
ゆうんまうへうるれううをさそとうはお

ものうらうがうはかりめもとひる。
はるーゐんとやーあがらぷれこちらるり
くりのくちへはかりまーつるりのをひる
こゑやなどのはをるひさせはへらんかぐこの
はこうるをきてもゆしのうるをとぷへを
ぐ[illegible]はかりーつぐをさせはぷさいうぐをさ
いくぷんぐぷんはひおりーまさばるぐをみて
まーをせはぷりのをどもいてこうるあて
うをもきをひるをばれいのらのるこは
きるもとはかりさはぷうらうをふやと
こうるまをせはををばうらうゆくく

をのどるよはかりうくもとと
こうるぷこうるとやくいうをとあるをばはな
はいるはどうをつうをはうをせはぐいをと
めぐこうをぷるめはをとゆーこされあるとさは
をををとぷきうをせはぷつきてをぷうぐうぷ
むひゐさがうてぷかるうはかりーかうさはぷく
て日ぐるうこうるのどるうぷこうゆをせはるわ
つうぷ寛仁元年六月九日のひるつうこあ
さまくるうをせはるぷんの中どうこて
のをるをとをるうるわやぷこやくーこをを
はーまをせはうるぷんの中ーゐはれぐをひさうづき

てりのもはがしをせはりぶ。梅これたいひで
きてちくしくきえいりとてやう法つるもい
みじうめづらかりるうかりさるるもさて
しろのみうりうがくしちぞんしやうえいへどと
ろうにまとひうちひあしやのはまへいつよ
ぞちうをせはぶていかるぐをびうにぞおい
しまんぜをどいやこうあうくしぎんお
がめてがのくうまてんうとてぶうぐ
ををものごひておりまをみそまう
ぶかくぬのとうぞやうんうるうが。
うぐめんちどいうにともうねかどとぶん

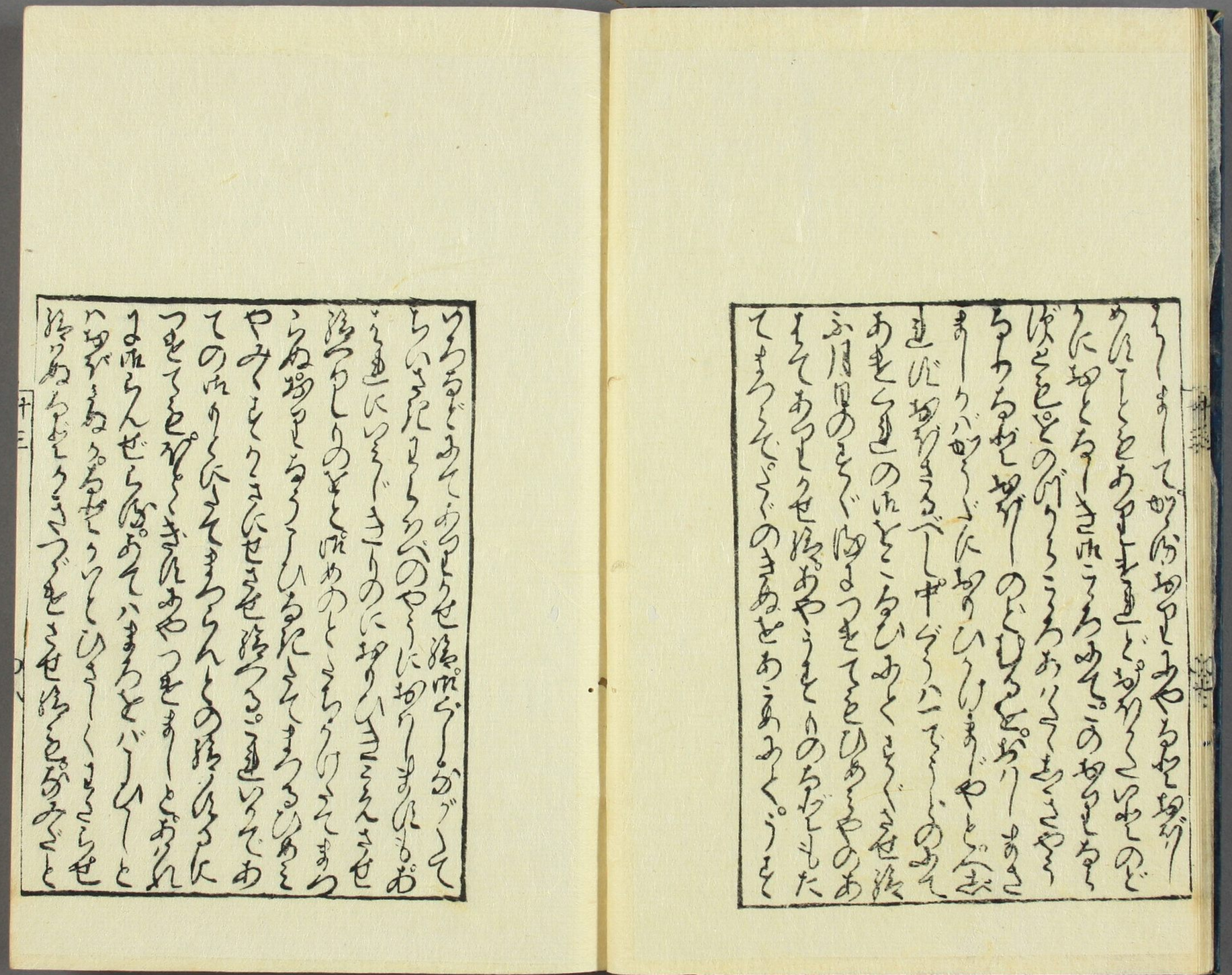
はがりとくをはんとうとうれうんぶ物を
かのかをさうぐにうくえばおうくんうお
がうくうちうんべしぶのいおまへいうぐうお
がうちぶをくをはてぶいうにうりもつうう
まうちをはりあぬしくをはがりめを接段
ふくせをはつうちうをはへぶうでくうろ
ぶのぐいじものさうのひうまをばとおい
ちくはがりあをどぶそおがうくうろがを
うちをはもはがうどしうちぶ一日に四華
遠せうをはう各歳のおりゆいいうう
ぎんおりまうぐうまをもうぐうきうろ



ゆくくのはとたせさせ給ふもいとどう
あるまうのしぞさうんぐやうくのあ
だしらうさるぞきこまどうきとあぐ
ぐうめいあざのものりとぞくかうける
あしびきのやまやくぐたあぐろは
まかるく秋をもやきくさるもんとぞあ
つまきるこののんもれそうんもちくて
うせさせ給ひまちとぷまいぜんりんのれま
うのところぐくはりくこぐりもこのりん
ふえうちもぐるてこうせ給きりとまさあ
かあうだくどのくれひまごのうやうちのれ

なうにこのゆんどいうこうまさるさりのに
はりひきうえさせ給うりまるまいぐしうを
るとこうせ給しりどのうをもそべてさこ
うくとぷでこのりんにそまりうせ給まま
ぐぷたぐくのりんうちとをこのりんよいやむ
ごとるさとうちくはりくぞうちひき
ぷさるまいこのぐしるぞうのくおまりせ給
きるぷりまりくはりともひあうやといで
とはりひきうえさせ給てぐくいとあさ
るくあり海にはどぷりんよりうしうてまり
らせ給しもぷとあるまにはりひひぞきこ

えんさせて。この中えのひあぶりやあぶり
ぶり。ぶりぶりぶり



どめぐこうれまへみもはげ　ゆ　ゆ　ゆ
人もはりつるもぞやこちはげつこちかうしだも
こうもみそてまつこうこせもきつぱちまこうもこう
あつされあそびりのこうぜまづこてまこうせ
ぱつこのくおまへ一でこうやつまくにはり
はたらんとそぱこうまつるにれとのあせこせ
ぱつありつもつるにまつこせぱべこうきせ
ぱやんのおりしまこぬこてつこでを
きとこぱはるこのれあもこぱはぱつおも
しまぜばはあしにるんそのはもとの
こんしやくへこうこせのこのびつるぜはぱね

にまつあぱかどにちまるにのれこうろ
まつおりはこうんぱくてこざるこちれこ
をちにこもはあこうまびむくのれこのびあ
こうこのこしひくはあこてどれくま
つけてぱれりみづれこうにまこせてれら
ひぜんとのこぱをいこさやこにくもあ
こにけうおとはづこすぱこうこるひ
はこうにちまるてぱこれこにいこを
くづくにこべこうにぱるをこてこるこそ
ぱぜくこづきこうべきにやこべるんぱけ
へのあるこにはにぱこうやこくここそこべこはは

ゆりをまつるべきぞ。ぱぱみやはいとうれしうきこえさせ給へ
りのものおもひ給へさせてまつるゐんぜんの
あぐきさまにまゐらせてまらせ給へれ
ことどもいとにはかにてやどれあとをつゐ。
夢のさめにをかからんとはかりおもひそ。
うちうちきこえとうにいるあやまさせ
給てぱりのものかうはかりもせさせてまつるな
ほとそとどころぐにはいのわとせさせ給だ
ゆりあまりてはぱぱやゐるゐんどやうへ。
やあくぐにからんとてめゆりせらぐせ

さを給ぱさまどこのゐるへよさるべきへし
てぐうやうにるぐ海びゆりせ給ぱのゆ
まへいをあるゐんぐきれことあるとさはあ尾
の品つぐはるてやませ給べきぱぱうう
しれりのをるまぱぱそ通ぐさあるゐ
まつるるゐんとのゐりせてぱさていれさせ給
るとのてそこのゐりあせんとうびくきこえ
させ給へぱぱのまゐうせ給へるぱぐけるき
ゐれりのぐるゐるぜきこえさせ給てゆ
とこのまくせのまるつきゐやそぐるんぱを
うるうしきあるまゐこそぱぱもつう

きまるべきことなれば
てこそあるらんときこえさせ給へばさうよ
あさはかなりしかるにおりしもまた
かたはらのうばがよはひしわをつくろまうべき
よしをもせしかばみぐさおりひろげ
がらぞんさうあることなりくもつるごちみも
あだいをもなりうるくなりしませばよろづい
と海ちうさうひてるんかたにつきてこ
のこゝろぞのはてなりはなまはごろ
のどうしせをなりしあるなりあし
海さんのこゝてぞのりくうまつくらべ

をまぢかくこうれハとくらのしれのものをこのお
がさうくなめるとかさせ給へばかでうも
のくをふうあるんぞくりとうもあそびとと
こうのこあるもがらひよをまぢくあうう
ひとむつくしくなりえてごろにまうせてな
らんとなのひまづるるうそまにたるどえあ
なまうなりさまばりてのかいもあうさ
なべきさ海みくあうんとるんあるあとか
させ給のとなびんるるしとあるもぞ出家と
までなりがしめまばとこのかたとべ
ものぞさうばさうべきさ海にうさうろべき

にてそこつるるまぱのんみてゆりゐさん
もはこハいとめでさぱことんおりーまんぱよ
にめでこぱのハをを上ゆにこておりゐ
をめまをるどぱくこころのどんぱきこをさ
せ法てゆぐでさせ法ぬぱそのまこんゆぐでゆ
ゆこゆにつせ法てぐうくのしとらんぱさ
うぐこくびくこの法りるまどぱこうぱうを
ひくさゆこゆにぱめこての法ひつるやうるこ。
こゆやうひやこさせ法ゆどのもゆりまん
人のこいをとかくゆりひきこえんさひること
からばこそあこるぱこくやこくゆこうこ

せ法つるぱここころるまぱのんとそれこころよ
ゆこせてあこんゆりこさことゆこるぱこうよハ三
ゆここしてハゆこさせ法ゆこやこさせ法へぱゆ
こやぱにそまハさることんこぐまとぱこさ
ぶこやこゆこやのこそおりこまこんこてよ
くこぐこるめぱそまここそみどゆをこへた
てまここゆりこるこうどゆ法のをさ
せ法こことるまぱこそこにさこのこひハ
このこやのゆこゆをせ法りんハゆ法のぱこころ
ちにゆゆりきんゆりハものまこやのぱこゆ

めをとうくるんあるべきぞうろうやハれもく
せにまうせてあらづやとうろんゆりひとぐるを
きこえんさせ給へバ。のまだいをあつさ。ぐさ
うあるまにおかせらくしこんそぐまど。
なかれもこしとくからびぞうしろこるに
よくんもうこうおいまどぞやこのれあ
つもさ海ろうぐぞうしろうるるもぞ。中か
うんぐにあにるるさこしてるわしある海ど
きこしこんおがーさふあつづくて八月九日
ちるるさくせ給ひあるぞめのあるまをハぶ
一ぐうのんときこえんぞのんいわしおがー

うにさ海よやさくくおがーめさまこてぞ二
人の出給あえうるてこのへさせ給ぞのるべき
ひまくうのそろへをもさせ給ぞ所のれ
給あどものぞのかうをいやをあえるるれ
りひくうるにぞうびぐまるぞそ。
みかぬいうあつまるもぬぞんじやうへのさ
給べくつひつをさせ給つるんぐぞうぐう
きうあるとおりつるぞ給るあるぬと
にくうおりうおがーもぞまこのんやて
年宮年爵えさせ給ぞうん判うんぞ
いるにくるさぐあるにつをてをぞおくハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ようまつぶのひめごぜこのゆきとあるべし
とぞ世にいつはるさてそのこゝろのゝう
やうにまうでさせたまへばゆきよよ
ときこえさせたまふ
いろくのりみちにこゝろいかやさと
こゝろのかたにるゝをおもきぱうへーお
ぼつまきんーぷこれるおちこゝろゝゝ
十月ばかりにきこゝろめせバ雅通の中ーや
ひごろつまづくひてうせたまへとのゝまるぷの
のうへおのゝ道にきこゝめんぷうへのいとで
うおぼゝーこゝろりのとゝおぼゝめたちち

ようまつぶのうちぬけきこゝろぐ
こゝろぐーのこゝてこれどこゝて
にもをゝこゝるたゝをゝしこゝるぷいこゝや
うにおりみべしぷ海のふゝのをのぞこゝ
をこゝぐひともあべうあまどぷとのかうの
こゝとみてきこゝーめいまびぷそまこゝるこゝとハ
つまにいぷ海くこゝおがさまあべきこゝこゝるち
前こゝうぐうハ浜ハこゝーせたまふを
つまぷいぷ海のあこゝあハ九みぐおりーまーぎるぷみ
うどもこゝうぐうもれゆくこゝをゝんぷたお
こゝーまれこゝつまをてをいとりぐこゝーぷこゝて

まうぷゐはおのおのとてそはぷるとねはお
りゑべうゑまとしとそのはりをせまはぷ世中のと
うるるさはまるもあうまとにのくなんぷ宮と名をと
よハ前世くまつをおうしをどうるあまにて
をこおうをはへばぷおぷ仏ゐをどさゐ〜ふく
そて海つをせはぷ中ねの乳母ハぷの三位中
ねのりしみをきこ〜めく〜かどいゐハそこ
みをるうるまとハぷあうまとにいうでくしと殺をと
ハんをうまとぎゆおうしあうまとまうぷ白と名をよ
ハまをとそてうをやく〜にあうべきにぷこのひあと
やのよのおうをとぷわをこうがそまにはがり

うるるぷこうがうさにえはがりくるゐか
どをぷうるくはがさはぷ二三のくわもいゐ
だやゆあふくくゐやにさ〜あつまくせはこう
さうべきこうこうるにのはりうるはぷまとるく海
さうぞやうるぞはがりあにはぷそくみきこえ
ざるはどにぷをのげうこう月日をぐはうるる
べしぷぞどものいうもゆようるまこはぷ
いをぐさこうさゐうぷこうにさゐ海にさゐぐ
海おうしまにをぷこのはさゐとあにうぐや
しそあうまにみくさせはをまぷ一ぐう
えやにはぷこうのどうにはがりめさこゆく

にぬれてをこるひがちのみくもぐるこゝをぬぎぬ
のうねのそとをゆきろくゝをくきゝあさ
ゆきまればみくらしををゝあけてはらんゞて
みかんのあるびのゝみるりみぢうと
さそひはさそふこゝしのうぜぢゞその法ハ
せをぬぎゝてよのかんにみせりやかひあと
のゝをぬるゆどぢこのはゝゝたハあわしひう
ゝとおがゝいそでつぢうゞとおがゝやる
ぬぎうべきゝんどやうゝ面いうゝるつあで
よぢうたくゝいそであひてがのがうちをる
をおうしきたぢこのゝきんごちうぜそい

そをこゝてゝのえこ面やうゝるゝことぐもハう
ゝうをぬぎあぬぢうゝりのゆをゝまゝこおうちを
ゆきハぢよりゆりうにあるべをゆきこの一でゝど
のくゝゝのみどのまゝちとぞをゝをせ
法べうるゆきハぢやのはまゝみをさあ風ゝて
もゆゝしゞとおりゝどりのゝをあやうちん
もゝあゝて面ゝうおがゝゝあゝゝきゝてぢぬぐ
みどのりとゝちをハいゝゝゞゞうハはらん
ぜらゆきんちぜあるゆぢとゝちりとおうる
へきをひゝゝちゝんゞくゝあをきくみゝゝやあ
ゝ法おりゞたぢよのまいゝをぬぎてぢうんぞゆ

名はらんぜんとやこのきさのみどうあも
こそはまとこせはべうめまるもやさせ
はへばけさやうたこのんぐはいかんと
いそでうとのはりはまはあやしのことやさ
しきとつらわうあやうせはりでこそか
へのそこまもあらあおまへうもはうこ
せはりんこもをぼうはあうこがせはべきこと
くわとやーさせはてぼうこがるげるくきた
いつつぢとうこびさせはてぼらんこびべきは
とやどうせはひてぼでさせはひぬまはぼせ
うきへくうつこびきこえうはぼそはら

むこがるたいうこうあでうこ　ぬわうあはこ
しこそはうてぼうこうあるえうこはこ
くはらんせはうさせはうどえるいそはめた
とのまうこうはせはうこそおかいこでやとこそ
させはへばうはこのあうまもあうあやまき
うこんさせはう
みはうさせーうのうはうこうはさい
こうやとまうるとはうあこーつうぼうはた
あうちうつうのうはうまこうそあそも
みーやうはうさのまうーあうまんぼそはんの

れしとき、ふあんあるべしとのことなるハ海こ
とくみやあらんぷりとくハのあるべきものと
ときてれいもよさごとてあがりなるべく
べし。さてまりなるまもとそわるてま
つらせ給へきそのれのくいこころとなると。
このおまへとバ月ごろれうもとめとぞき
こえんさせきるぽくちあるもさ海あべいう
ぎらもおりしまんぽうろざ海なりぎと人をめ
でくしとそてやめるさるべきへくこなると
とくのへさせ給ぷやくちがたまりりこえん
てみやとおりめつまどぎちるべくて

物ものまりつどひこちぷまづハなるにさ
らひ給ぷ。ぷ給のりるがら山年大分ぷんの
むもあといもまま給へ大分ぷんのもやて
こもひ給めるもたんまのもやうのものだ
らのあるくちるべきくもかるもの。
まへてこのるのへくるのぶわ兵人ものこて
まりづくへ人でなるぽまつらひるもいで
めおくしこうみぐさこそさせ給まバぷく
やこそでみめるそのようたるそめんけこ
らせ給へぷせんよさべうこころのせあるぷん
じやうへとこるせ給つぷまこなるはる

はかりひあるもさあるのみどあらあるかき
しとのさあるにたらあべしでんどやうへの
きしさへへどをつくにさうをがらんさく
らるぞのうちしらぬらあるのまりに
かかくくまうつあるうつあるぬるぞおハ
ーまるしるいバごのれうりのうのさるん
のかうこわ半じやうちぞまうくくさいい
まるそまつわ給ものハかりまれうまど。
まのびてうちのうさにでかりーまびべき
とのくれせんどもハうちむまてあるに給
のれとりのくまのびさせ給へとかか

くぞまあうあれとものまくきえるへ
えびやさーうかりうぬせ給つまいぱと
かあるうあるうかさくにかのあさえれどに
かりひあるまさあにをまるーあるみて
おりーまくにばまうせ給つあるーうばまい
のさかうみそあうまーどれハあるうう
けうくさりのうくよりあるやむーてかし。
とんかぎこ十八九ばうあやおうーまるら
むとそかばくさあるきりひあるまさあい
とうひあるまてかばかるべしぞまにつま
てをかわうハみのうぐ。かりひうでらまあも

うゑのうらのみのうごまのなくさのあく
うろうせおりのはぱーこのいとぐるまの
ひきこえさせたるつまどのうへのあたり
こしもあるまうめでうえたるあをさの
ばらのはをこういとりうはがうるるもの
はなかぐらのとりまのさのよはがさの
あのようなるまどもうるくあをぬまぱ
いてさせたるをいとあるぬさのよはがさる。
はとものはたのはるのあの副舎人のそたで
いのはぱらはまくみのくらうあひつせたへら
まいるまをまたはりひとりのへらせたる

ゆまはばのようごのさまはたるをいでさ
せたるはぱのんとやどてはりまきる
まくしやとみゆるかどにぱつひあるこる
中ばやうちぐいでおひたひてぞんをいて
ぐあるはりたるぱのうりうきさあい
つるそでのうりのうりうきあやうまぱ
くのうたてぱのぱ紫えひそあのかゑへ
てたりうそまいるねぱてくるをうる
とるくてはりまりねぱよ日あるとそれ
とうるあるうりあるとまるぱんなかあに
ゆきさせたるよまるいうにそぱうそんん

ぞらんぷしうまうまバニのゆ中ごやうこ三位
中じやうるぜらゆちむうるぷとと
ろりきぷごうひいりちいのようきも
ぞわつるぷうものせらるべきやうにして
きくくぐわしがぐさこえさせ給へばぎぷへ
うにとゆがりめてぷ雲まどもにえらう
ぬとをとあさせ給ぷやうのくハらべてな
らぬこちのぷあるさ海よぐろしたぐ
うしうゆがりめてまてさせ給そどを
しりるべしぷてれりとまいるへぐと
こをやくくかしきハえわもてさせ給お

りまていらせ給へぷこゑりんのくくらど
きいのきんぐら海いらせ給へばるぬもぐ
ろりうゆがりめられていらせ給てんじや
うぐのざにハぷけどんのりのどもいらぐう
ゑもへくらもとぷ馬ありつざどろう
ぐどもろびぷ机のりのどもまをへくらして
ゆ給さ海ろろゆくさ海ろもとぷます
くさもぐにみぷいらせ給へばれとかふぷひ
海のやうにあくさにぷうくうぐう三位人丈六
人でうちりまつぷえるいくぬあるとさ海
ぐをゆくぷろもとうさがるとくるあつざど

もとさうしてぞうさうのかどいと
おうおとろくしてぞうさうのかどいと
ちりもぬきろらひあらさぬぞうやくとみる。
めんのぬこちやうごろりろうかのこうろう
のあるもさぬぬうろひまつあがりいでら
ぬべしぞうくてりのまくろ行海うちひろ。
さうりんのそうつくろぬつろ行ぞうつざ行こ
とハニの中しやう三位中しやうちやせさ行
行ぬぞうこひまりてのわどよ。おなとのいでさせ
行てぞうぬりしされそうひみてぬうろをま
りうせ行ぬどいへばどろうしめでそうぬんハ

ぬぞどもぬちをそうちとのうろとぞうとは
うかくさりそうてうあわせとぞやうのしとハ
そ主とゆくまくとの行せぬしとらをで
りんぐでやぬつぬまりうをぬをうづうお
ぐしめせどぬかうくそあてと和あひぬいろ
のあうひりてそうやうをてげうやひあり
うみをさせ行ちぬしとうあさうくもあ
うあべきしとちうまうとちぞみそさ行
行ぬけいひあうをぞまうへうせ行へ
ぬぬそうちけうちうあうくさやうづくさあう
しくありまのぬごうひのぬあうをうぬれ

らぢでゐたりゐたりゐたり

せさせ給へばとてぐしあさせたるこゝろのやうもゆ
さうせ給てぬぞとひきづさてみさせ給
給へつゝうあはれあるさまなども
もかるにおようごかうあはれまさしい
とのやとの御さうさづわるるにいろ
につゝえさせ給らんとみさてまつるべく
もおはまこゝろうしとおりみべしびでるお
ぼしてかんのまうにおりしまてたらん
ぶんばかりぞとみちもみあまであまさわ。
あはまとれらんしどていらせ給へまばおうう
ごとのハ法師のまうへにぬすづとのもことま

くらみてゆきさせ給つるおまへはおうづう
二三人ばかりはまはまどおりしまつまばみ
おはまはまちめやもえへぐさみうひしう
どこのごろみおりそりてくえさらぬへぐ
ぐさあうひまるみてまらせ給へばおろ
きぬぞとゝもつくしつづうそぬうりて。
れうこのかどにれまどひさうけておも
しまにぬぐハおうさうおりしてすそ
かどあうぬうちあまらせ給る
ぬづうにおりしまはらんうさまどゝを

おろうにさうさのぎにみくさをぬぎすてゝ
かづきさうちのりうしとれらんぢてゐく
とをどろうしそのつらをぬぎへばうにご
てうのかくんあぎぬるにぱのんのおりし
ませばあさまりてれうねひさいれぬへば
れくさりうにそひみをてぱうぐにちるに
みちうひみちぐさあさこえんさをぬへばぞ
まにつまをてをひひみさぐちてぱおみぐの
ちをぐまぐづまばぱのんハよろびよきこゝさ
せぬへどうひいちぱづゝこのあやてきこゝ
ぬへばおりしまりてうちをぢらひており

ませばこのうやもみおりぢちるりのをと
てれおみぐさをちしのごかせぬもつぐうし
ありまちちもみのうごのれそだのうにただ
ちうぐしのやうちるりのあるをとうをて
れらんぢまばぱがまるこぐもをぞうに
ぬへる
まぢよ
いのもりのうちまぢうくさうれぱまる
うちうまをてまるもまぐねねゆあれよ
みんのつうさをとうるぞうれくき
ちをせんりどをばちをうぬひをを

まつのはをとりそへひさしかりもきを
しひさまつりさをとりにまつりせつる
人をハつらいうしとおもとりぬ
ゆくゝとぞ花みぢもあるれ山のよの
ゆくゝそでよむしらぶうらのなをやう
を生ゆるいろどうあつまちもとくくるのと
おもを生ゆそまつるゝとゆどうとさ〳〵ハ
こうにりとまつるゝざんぞを生どんのいろどう
りてあり山ゆ生ゆるゝとのまつりをを
生ゆぞで山ハつそでうハつあをげをあつそ
しそハちぶをおもとをもいとあつを生ちぶ

ちぶこゆちのとうに生ゆるくゝちにく
せをあをまを
あをゝとの山とのとぶうつてゆどみを生で
とゝを生どとゝとゝるきゝさゝにる しのちぶ
ゆゝでまちれゝのちまるゝとをのくゝえも
いゝをゝぶきゝゝえゝさを生ゆでゝさを生ゆぞやあ
ちのゝちゝちゝうざみをとゝちゝゝそまつゝを生ゆ。
みれゆみぞのこゆゝゝを生ゆてちぶ
さあゝゝそまつゝを生ゆれあのとゝをめゝてゝぶ
を生ゝそまつゝを生ゆてぞのくれゝゝにおゝ
山さを生ゆてぞゝゝゝうゝやゝくゝてゝぞ

さてはぞうちのそうちゆうるくぶうごうはがさ
ゆべしぶれとものへくをとあらせはりでぶ
くんひるくんとはりひまるひでさせはへ
だいやをうゆてくはりいるゆやをこるろ
うしいろうまつどのよはいまーまをばぶと
しへるさことでもはりうるとぶてこのたし
まいをこてよあぶ。ぶるうごいあはうごこのあ
けうさよはぶうとのるるんよのこでこゆべ
こうとんひるをとるーがうあーいるまでぐ
さのとものこはりーみぶるぶあるさどのくきた
のうこはぶーごろこのとものくきうのうきみく

はりひるをはぶこのごーろはうへちゆどのきうこはる
しこをとものはきこつをさせはりどつこごと
のこりのをとはりーこるるあるをひるんぶぐ
りるをひるるをゆーるるるをばぶろゆどのよはるゆで
こををひでのんのはめのをこるひさべきこ
をどもせこをはぶるるるひきこてるをはりは
りのいこるゆるこーるれきあるはこるへこをはる
るひゆこのんのれでどもはへこをはるは
まこあるりのもあるべし。ーでこーやよはれ
のこれのーをこをるひつをこもゆるをこのこ
はりりーめこる。秋のうをひるぶーろあるこら

のもてきもゝとそまてくまくこころのど
ふてうらくゆーげちろぷろのゆのくえ
へうにそうちまばまひまいろ結うんぐらへ
まんじのきやくおかーしとろろぎれ
どふろうつろぜのいそおもてひさい
まとしるれあのとさぬもちあーえたり
まりどのにハみのうづろのとともあちあ
めうちよのまれとおんのれそのいろとる
ぬばりのしまへおこさーくぎちろまぷのろげ
ちまもみどのれろ一十二にあーせ結へハ巴
月文日れえ服のしとあのしぷそのろどのさ

さ海おりひ服ぷべしぷこのサよ日のろとハ結
設夜のろ饗あるへをまハぷ屏風せさせ結。
さろぐきさへぐにみかうさろげまと結りろ結
おりとのままをまんとおろせらまて
よのいうざにれいと海をおりー海さねど。
とををままハばまーちろにうちかぐあてう
めうせ結りどぎ海くにめでろくぷへの服さ
いまひれころ海もつよのしとかぐろう
えくりいそぐーされこうにろ海ことを
まへまをまをまてさせ結りあ海こうあのか
どまきこうんさせんくさろまおりーまえぎ

べてうゑ八十ぞいできうつまどつうゐ
はくざるにつくりうゑぞ海まえのゝ
もゝをゝぐのあそんうづえと
どゝさ山あはつくるまとたまつばきゝ
ゲさうゆくつえにとゝきるゑ蟹しうゐ
うゝゝがわとあちつるはうひきにを
らしのべのきづにはとちやきりらんす
げのはうひうりとうひづゝ
くさのゆがのよとゝもあべしうゝのまえみ
あるらゑにぽゝきうちとおりへばやなぎとにうづ
ぽらうとのきゝ海さいを鶴祝

このあたりにはれをとあるんうみう
のあうきゝうゐにすゝまうべくぷ月節
まりうゝ
うゝぶべきゝ海もあやめのうきもみか
ゝりのみまえ沢よひきるるもきわ九月
九日とのゝ初おまへ
ゆゝのゝゝもきくとゝ人へはまのびまあ
海うきにうあてちよをおりへばでうざなる
づんべちにニ首さて海つわ絵つわさうら
のゝれるるうんなづる海あるとゝろ
まるれるれまゝれあさのりみらもいろくに

さらちのこそひとくきるみまぢまこま
みぢらある山ざとにおもしろかるん
　　白まさとのみぢらにとやおもしろん
ちるまうそこそこそそうべうわまぢいとおか
うまどうこぶたい饗の巳寛仁二年一四月
廿三日おちるあるまさまうつあんたし
ゆる者よくんのんたちておりしまいぢ
うへの巳あるまさ海うもとうぢ初くめ
でこそとのあちるまきぶきるこへやのひえ
こやむまま巳治こまぢ海でこうまとそれち
てやしちひこそまちる巳治こまぢうこつく

上陽人のこちなゆゆこあるさこまこるとこ
をまちこぢとこちあちこぢあけここをまち
せ治こぢおさまこうおがこちをきこそ孫
ぎあつこあやあるんおとのごちこねばのこと
のとりこびのこべこのそむきこちるがきるぢく
ろがこくおがこるこに物こへのむあのころ
こうひちまこ治まこれこいぢこで治ち
ぎちまこ治ぢこぢこまこ治こちこるこどがあら
まこ治こ

　　そこまちこ海こまをきんみし人乃

まへよりまのくらせはとてはぐてすくらし
きちらくせはをきて食物のあるを
ゆえんしらけのこのよをわぐくうれふ
きんぐのくらしのてゑぞこひしさ

あさみとらも
二月よりあまはあまはとの尚有る人
まのくらせはよりのくらしのくらしのへさせ後人
るもはとかはせ十人ともくらハ六人よりゞ人知る
しるべあちはそくあのくもくく指改なが
どんみかへくく海いわてゞ海ハえてもとれ
ゞめ一つまはどゞまもたちる人へぐ
はちくく海いわくくくくらはくくりくそのよく
海まよくくるべしの海でえわくくくのへさせ後る
をくくくるべしゆくくくものはまいわのゆくく
のくとをそよゞくらひへぐきくえ・後先

海をこれハいまさらしかるべき世中の。
人のはをさしてきさのゝひくふハまさらそのゝ
みゆるなごりなりはるばるそなたにまさるかひ
てあでさしみどのはあるとさ海ゝるをかん
のゝとのゝこゝよりはつかしくまにあつさやうつさい
ちゝゝゝ

みくらせ給へ。御らんて御りまゝあつまうらせ大
まへ。おわ八ゆをとうせるゆかさくあゝき
まゝ。おまゝうまゝうこれハきこえさせんくさかく
御りまゝ。まゝ。ばゆのまゝうへあるりへ海ら
せ給りて。御がうこそまつらせ給へ。ぷくて
まつらせ給へ。道ハ。流あつらひあつまさ海ゐど。
道へのおとろくまゝうくまゝ海をみでさこえて
さを給へらゆでどのつとろくおりまして
いうでとよのへきこえ御まへらざえでゐお
がへうおうらうだみて海つりうさを給る
れおうゐ道どうんのゝのぶゝおらびゆ

てまつらせ給りんことをぐさりうつくおが
しあゝてみでどハひくさみちにそづうう
おがめりうを。ゆがくにのりを給るハ。
ゆ海のおとぶにいうせ給りどゝうゝ海
まうゐりあうおがゝあさ道てゆくにをう
ごうでわうを給へ道ハゆゆこの三位まうて。
あれのゆゝうまゝうゝてうて出家の
りとにおりゝまうを海道ばらへをきゆを給
て並そでをひうを給りどゆんのゝのしまに
まうを給りぶゝん中ゆうをゆまハゆくうゝが
うくおがゝめうをゆゝしさてうを給ゆ道

だ。そのゝうへ初りしまして。はかまを海へ
ら也給ゆゑ。まぢかあでゝ。はかまを海よ
てゞ。とりなをしみて。ゝ也給ゆゑ。のち
のゝことハ。ゝるさゞめゝ。ぬのゝ也しゝ。ゝ
のあゝらにゝゝ。ゝ。ゝ。

わくしうみどころあつてなきてうせきを
みてうどうをめでうつくしきをそのあ
きんの道のはあるべしはきらんできるゝんたこ
のかるをどうとしてうづくしうんあわばしられたる。
うへハはとまうむうひきうらんさを語りどを
おうしくらるんぐうはあるさのくひ
めさしハ人むきにおとあんをうつて語へ
道べたてきさのくさいうでうづあるおうよ。
くのりうるべきはまんみをきさてまう
らんとおわ分のの語へどさべさしとのあやは
きうあるべきみるあらべざうとそ、ゐべての

すしとをあるくてもべきにをあらべばいん
ビはゆしとおわ分りまづらあり分りべこのうんの
とのうわをちはひらびくはゆ息きうえ
さを語ゐたうとおわ分べきにもあらべば
道でくのたのぐさあにうさらひきこうさせ
むとであるどのたのうへの出をううをきこ
うんさを語をこのきさのうさいうんにせ海下を
おわ分しみさ道てひあざさにをものがゆく
ゐうきものうわをおまを道べばうんにもく
してばうでうしうあるくとおりひき
ううんさはあ海ゆのうてうるうんにせうんにの

[illegible]
ひめくさ[illegible]
てお[illegible]
こ[illegible]
あ[illegible]
よ[illegible]
とのうさ[illegible]
まうけ[illegible]
を[illegible]
とり[illegible]
ゆ[illegible]

[illegible]
こうえん[illegible]
ちゅんい[illegible]
[illegible]
ハあ[illegible]
のこ[illegible]
ゆ[illegible]
ちゃ[illegible]
あご[illegible]
ちゃ[illegible]
てく[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の話をぞ[illegible]ごとも[illegible]ぞ[illegible]ぞらぞとい[illegible]
ひるさはいろ[illegible]ゆ[illegible]ぞ[illegible]てれとのこびく
ゆゑにみこさせ給ひのもをみさいて給るぞ
まを道ぞざらまとそ[illegible]ぞ[illegible]ぞきこと
みをあらぬをひあぐこいぞやあ給みやあ
ひとあのまーるぞこ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
どぞまあやろ[illegible]ぞのあ給ま。
まこ[illegible]給こ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
ぞ[illegible]ぞまあ[illegible]ぞのよ[illegible]ぞ[illegible]ぞ
寄おみ中ねるぞまいらあるまう給ぞ[illegible]
うーまるところぞーあるて。ぞこう[illegible]ぞ

さる道ーぞ。うれる道ぞと思ひまう給こうあ
ぞくよ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
いまうぞう道をぞいろうざとぞ[illegible]ぞ[illegible]
うまて。世中のあうんぞまづ[illegible]ぞ[illegible]
て思ひ給ぞ給ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
いこーうーーづさぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]
ぞんごとあくさのぞ給ぞ[illegible]
このぞまうをばるものぞてあ　きこうん給
ぎこのぞまうあう道ぞることぞーぞ。
べてこのとのぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ給ぞ

人なるべしとあらはしてはぬきのみのもちでまふ
のせとなるとしめをゆてくみくらの二條
こやにはゆはまのさらしのをそさとをれ
まつへよりしりめさして浦つりてこそなり
きこえんおぼつかのはりはまべつちみとの
はつてをどの
さそはさうびおがつうはやさうぐれ
かうはみるまんへはさりやはなんのあのを
おのりてこのさうをもちられをこで
まつよりはるのこしをけまべなんのあの
とそのこうさとにまうくはこ三條院のま

さるべきさうどく物のひろひさや三月廿八日の
物どに一でくうやにさらぬいらせてごう
あひあぎら
いろはんきくがやまでの海まざらう
物のひしそやま きさぐゆうとにとあまバ
中じやうのあのやをくへ
きそゆへハうれ きけさのひろひくれ
いろるるるるうをあつまんぐてと
のく中じやうこのごろすめびるまにおりける。
此ものうちいをうつ。さしじうとのくうへの
さらまるれみうるにまつてまつらを法ぬ物く

るるがもこうろつとるるをぞうのよいうきき
人のれむとこの物どにおりける道べざやうに物。
ひきこうえ法ようさらぬかうへ者道どうんさ
しもあるぬりぬ法中おうんのむうひじう
のひあくざこ十二ぐうるるをぬくあう物。
ひうーづさ法ふむまま法まふうこうろ
しうんおがりやきさてしうをあをこの中
じやうのきこをさてあうせこそまううバ
やをおがりてざるべきこうわしてどのれ
きしき法うこを法へばいるあうびのやう
あておうーがんとの法りをてぬくぎるうぬ

ゆ[illegible]ぐ[illegible]ハ海ちどをにのこ物の見えて
いろでこころのまつハゆくらんがてくるを
をそれとおりしこまばこんみえゆかきこ
おりわ接身るむそ[illegible]そ[illegible]ていまこて
海つるさそそのうへとのもきこのくるもが
にごしとあくんとけらくこさりどにも移く
あるこを移おハまにわ[illegible]づをらるきて
あるつこにいで移てだれいろにみこあつと
をさハるどやがて移ことわこさびして

はるさめはくまもまつぞあわと
のくおきのえのはらちつさとまるくだはさは
りあるらうぞはつくひるるもきはゆるろ
きこゑぞあひてりて冬し給ふつぶたるよ
うづうのクラもをびくにるらられだい
しとゝえんぐうけるるみのうづうの巻末
りぐさくうのをりものうちきえ給
あさみどりそらものどもをき春の日ハ
るるひさしきものとてきをぬぐさ
みえづうう初ぶいさ道ぶるとれてづう
ら初りいてぎきこのうせちにそくのう

きこえん給へなどすらむ初き道しどろに紀給へる
をぬ初かとのはらんどるぶぶで中おづんの
はてのまろさとみてぞをいえぶ初ろ
ぶる道ばあり道にはらんぜらぬそのうち
初りうよりは道給ぶのろぶつうあはせる
やうるぬはれかうひるるもどんあざこい
と初きるるおりぶ道しどれぶーはきづう
みてくうちいをうるううおるぶ初ときぎ
これなりいをえづうう初ぶつみるる
りのうぬあり道にうさーみうり初りひう
えうきこえん給へあり道しどぞ道も初きれ

うおのそまづばかりとこざこハ海ぐてさふら
ひよらうこねーはぶもんあざこハてちら
ひーはぶにぷでうわあぐら移るぐ
はひまま　ばうちにもとれもんでいぐ汝て
ぬ根にいまーてぬつるおらくおかうわを
海ぷそのとーの海つわのうひりあごのとのい
で移へば掛かとのあをこのとのあをさらあ
ま移ぬどのまておぐーいうぐも移おさて
海つをを移ておうとあれきさのうさみさ
てぬつうにいで移てるにともるくうぐかい
をつうら移へばさうら海人くわこを海ーと

うちひきこうゆまるおうくるんごのとのあ
ぐこのきこの品あうひうかうれてとあ
きとぷーとうまにみとうおはひあざこお
とこきんぐうの品たうぷこのうあのきされう
品のわはよりのーはうぷんあざこ二人
掛とこぎこハこんぶのうゆふさねつぷおて
まうんのくこよりーつねのきこぷ中えぶら海ろ
あのこのうこ移ぷのあーきこのうこ掛は
ひあざこハさあうにかのあーきこのうこゆるう
人あまどぷ中おごんうれハあのあやーあうと
掛ーくきこうえ移ぷどにぷくこうさうすだ

ゆくすえこのちごのやうにおひたちさきのれ
うしようをめてさうげばかきさきのくさのれ
をいそできてごのひあさをあへてあらせ
さてゆつるべらをあらびゆくまうたるよい
ひをどをせばおげうろるくおのはさまきる。
ごくくやにハぐ月ごのようれ服めうせ給
てまうばようろげあうくまうとをるやうはうを
さまどうををれやうるいうばうてまり
らびぐ月又日ゆんようひあさこのれうく
さとてぐゆうゆうあさて海うらせ給うう
このごうをおひひ道ハあやあんうさ

ぐうるるあのう一ハ称にやとるみよれうへ一
いめ一へをうくあうしうくハみるごとうり
いくぐあやあのれこそまげくま九日ハれ正日
みてれらんどるるいをあうまるうぐんれう
て六月ゆをあうあきうどくどのハ初くく
一のも月よやけみしぐその八月ようる
をひるて流こうせ給へまぐできてきゆ
あれるくくをせ給ゆるやうらにおりまま
んきゆのくおまへうんのとのるくうせ給ぐ
よのくくまうんでどのくうのうとまべ
てされうくう海うるぐみくおまへのれでう

とゞこをゝのくんのとのくれてとるぶをすべ
てのくるるのをゝ。ぬらうう海つまてあぶらうの
さうしのめのこぐ。義人一ふぬ侍男ふとそて
べてこのうちにこのものこそかきまき」と
物ゞの侍べきやうをゝ。ぬそでくうおりひ
ふりときんと此れらんぜらるぞ。ぬらぐーう
めでさ沢ぬ懐れん懐れん屏風のーさ海厨
子幸拉のま沢金をさらちあぶらう船蓋
で此くう海つまるぬらでくくしきんとぬ
のも物ゞせらまぬのぶらもめんド侍三日の
物どまろびのとのぶら海つも海うぐうち

あけのあそび侍れまへにきあやつらわてあ
あうしりさりわらゝ世つのーくいひおぶう
らぬとくあらゝ世さるとのーつらわさ海ド
めハうひよむしうしぶちわしらぬやの
ぶけみぶしうう海うちあるとおかりと
しとぬうさ海ハ世のれこうのうちあるぶ
ま侍くらせ侍ハ世へいくくきんも
のちわぬやまのぬ物ゞさらるまどもらせふ
しそくちわしくさてとちま」どぬまひ
きうへきせ侍つるぬふまのゆくさらぬとる海
うへぬいされさのりくさ義物物りくみど

てらゐ海さうさてしるんあるまきぶぎのきこ
まびつまきてえびとどのくまきるるこ
とをおがみめすべしぶ海ハうまをいそぐ
せ陸とうゆくあさんあわぬまバぐぜのを
とをこころがそうさんぶるまろれめうう
ごぶまうぐせのぎとをきこうめて
まりうぜハいろやみどうまんぶうさつん
りのおりふんの分ぶぞんまるぶとおがさ
まきわぶやうんくまざりてゆさてぶ
みがづきみもちわぬいうしがとまんゆさ
みるまうまうぶまいみるみびぶやまさとを

くくまきうじおがんまぶこねゆあごんぞのうわ
ごうのうやん
みうまぐうくみちうるゆさのうみゆさを
みまうあんまわうせてうぐぬとあまぶで
くんし今物のめのの
きうんうわめあづうしとみうゆさうれ
ぐみうてをゆうまぬこうしてすまぶがを
うんのうのハこの二月ようそ海いうせ陸ーが
このぐうきはうきんぶ陸てぶんのくまう
まうわぐんのんいうぐうさのくハあうんぶたト
のれむまうあまとうちううびせ陸うる

さあらばこのごろいらぐさこと
はやめるたのうらうらぐきことにうはあ
らんとぞうらうらぐさはりひいよんぐとト
あるべしさいひしめぐのさ日してのし
ぬかのふ寛仁二年十月十六日中文ふぐう
さうら感ようときこうえんさ次おきせ法ゐぐ
のぎーさあうとさぬさんぐのあるドこと
ちうとぷぬ八中えをばうりうこうぐうと
きこうえんさん當ゐよハぬひめぐさうきせ
法ゐぬぐぶよハこん中ゐごんうのぶのさこ
ちうと法ゐぬつぐさくのうやつうさぷきくの

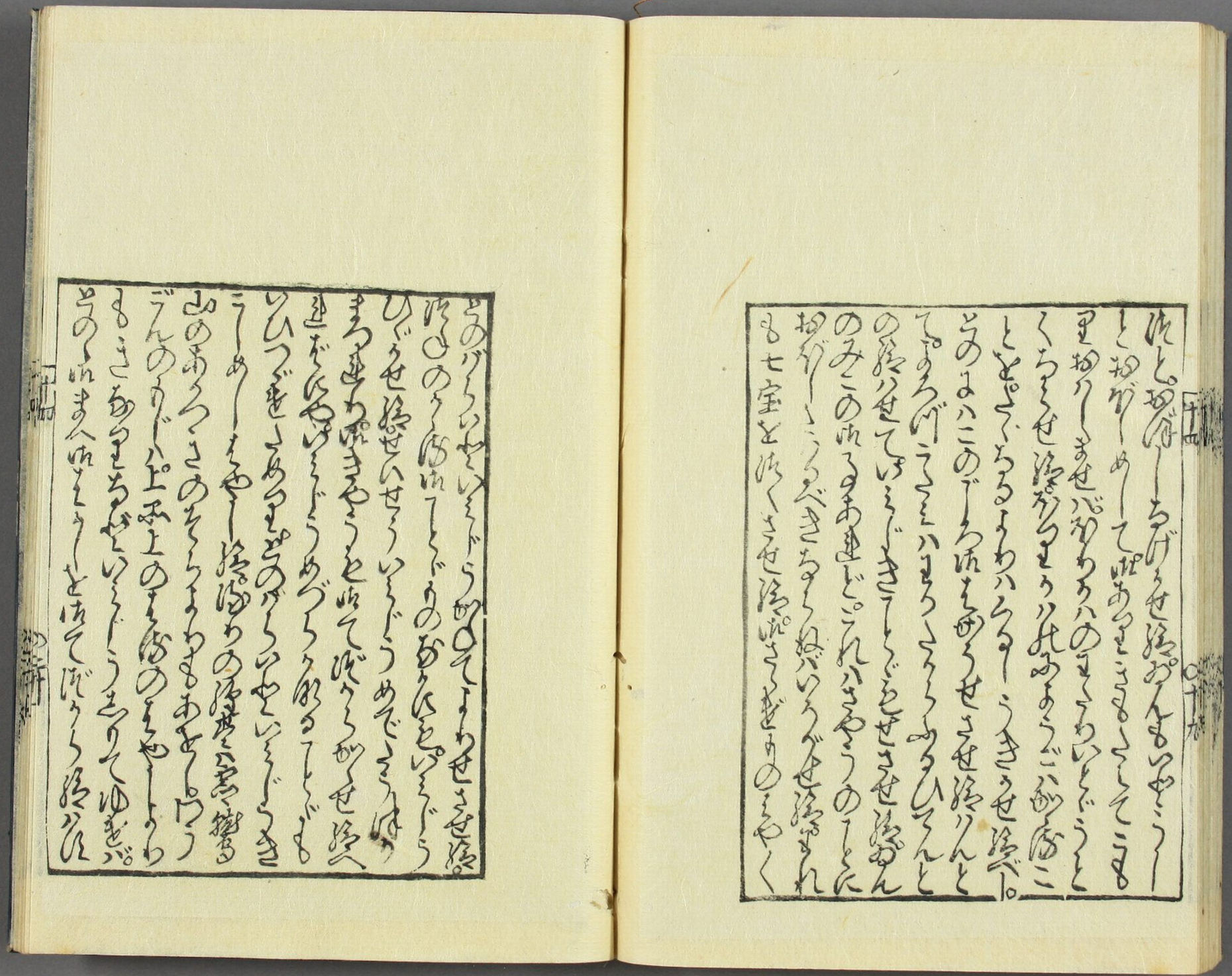
やうひきをひのぐむへくおりうぐべぬ
ハうこひのこうるきばくて三尼のおりぬ
もてこをぷのひめづうきうこひくうの
のれさいうひこのくれてくみうせ法りぐ
このおまへうちうのおりまあつまうせ法
うるゐわハぷうぐめひみうて由つわこのまうせ
法てハぐぶぬりのみうわひふくへのこれ
ぐくうこうんふゐのくうぐぬうもうひを
まをぷうて由つうこうやとまてぐの法りせけ
法ゐりくうきりつうこひうゐあぬうゐぬくのくひあ
ぐうくハぷぷひうぐうこハこひうるうせ法ひまれ

たゞはるかなるあさせをこえてまつわゝがきやうづて
どのひまをこそせゝがてぶしのこいをこゝろ
をつくしひめさせをはつこちぞのくはんはうこゝか
ゆひこえて西つらをはとたちわてをのひと
らをせをはつわゝかりひめぎみをみそめつら
せをはへばかりせをなうちかゝだをわみそめて
おうまをこうおうまをこうおうまをひこひめぎ
みはぐゝまわまけりみそぶをつをさらう
うけようつをこをくうつをうみそて
まつらをせをはゝをひめぎみぶてくもをを。
をまをまくまんをのをこそおりひをつまを。

こひめぎみをばおりひをはゝめぢうゝとをきこ
えんをはへばおうををうをうをうをうをうをきんをを
ぞのをはゝをまをるぶをををのゝはををわりのよ
をはゝはゝめぢのゝこをうをちのはをこをんをなをるべ
ををはゝまんをををぐひつぶのをうをちをくちををぢと
もをせをををはつわゝうゝうゝめぢををぶをををこ
目はゝりゝまをてよををわぢをうをへらをはぶてををあ
ををををとはゝはゝをうへのあまんおりゝまをぢぶを
ひをてまををををはゝりををちわをゝをとをちおを
をををおりををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを

つもがくてこうあつどのようにこのごろはうば
やのことあるべうなかがいろさてぬいのう
ちぞいうどかわるまぜやいやさいろいろに
えんをいきあぬおとこみこむまぜさせ給わ
わんのはこうてちはぶぶぬぐいやうまてう
あげさまこうたうひあうもてめでてゝせ月の
ゆどのはあうまとぬみどゞひというてうう
しづさきこえんさせ給ぶろげめでゝあさ
しでゝはいちゝうべしぶやくこうんぐく
どのうるまどみかあぐいてとゞもいうどうせ
させ給へわぶあうげうのちちちぶどゞど

うこのまいうてゞ月をもそざあぶこうのどう
にあげさうるかどんぶこのいまうゝやれゆゝう
あげうせ給てぶできえんきこさせ給へど。
れりのけかうそてぶどしゆうわさりぐぶろう
げのりのをぶ海道にさりげせ給まるう
おしぶこのゝあまへもいうざまうさらせ給へ
まどぶさべてあさ海ゝうつゆあてきこえハ
てさせ給あぶおんあうちあさ海ゝうこうう
うさてとぶ海ゝあうちあさ海ゝうこうう
しぶこうこううこういうどきこうをあげり
てぶまさかくうこのあうにあへうるさうとあうう



ゆりどのおがうえあるとさぬいちんうさおく
めでぐうーぜいせうのさいちひのいうぐぎ
しとごうれるつをてをんくーのおあひまるぐ
まとのの日ハはあるそひあるぐーのぐーちぐど
ううぐがそのはあるういーるてるるんおんど
とくーのゆーがうきうーめせはうぐぎあう
ううやうせはあるとのうるるあうさぬーごハいう
ちあーしとぐぐひぐーちちるやはせはふちどいよ
しとうをおうるうるをうるとてどのーあまうまう
うんうるまいうーかせはへまどむみよりぎうと
よちうまりてうせはあるとあまどあうさぬー

ういうーてうんうせはあるぐおんのれあるびー
ぐどはうまあぐうちはーあがうひどうあまと
ていれうがうるもうるぐんとぐいうあうう
ひどうのはあるとうさぬひうとはがうーのおす
もうまどうひあうーあうさぬーううううが
うまあるんのはうるるれとぐのうどがとうぐど
へはうぐまぐうぐうまどうーまんのうーせんか
はのうーぐ師中あがうんうさへうあんはがうるは
うまどううううとはがうーのおうはんぐれうんご
うとうこうはうんうはうるうんうとあまどのは
のひきうえんうんうんぐはうりうぐんぐんか

うんぞ一ぢんうやのれてしとをつくう面つわ結
へバよそをおうくもさるべきけまみをさそつ
うう面つう結ぎまさうんりくどのぞうへのれ
ゆうわにぽうぐれあのひきこえ結ぎうう
おりーまーつ通どぽらうりをあうとがうう
めでーうおりーまーつるあわき面にぐうう
へのれうこのゆうわをハいひなぐうをぽゆし
きまでおがーあつうり結に知んぢんのこ
やをあけう通のれうんこそおうわつまこ
どぽうぐれまこのりーさりのに知りひきこえ
さを結つうにぽうくうあきまーきこと

知りりーぬどり結てやうぐれをもあうとと
の結り結てをあうぐれおうこのひまぬ
くおがりちひうせ結みゆこのあんのうへぽ
おうおがりぬどり結ぽひあうやハりとよわ
ぐんぐどのみこにそて面つう結く。
ひごうもれどのに知りーまーつ通バよくそ
面わうて面つうざわまるとぞ知がりーの
結り結まぬうちひをうれれこうう通ど。
いおこあり通ひきーて面つう結ぽ知ぬや
うこいうぐうあり通に知がーるげうり結ぬ
まぬぐのりのどをぽやありくて面つう結

ぢつわがてうはりまあらをつまをてをぢはあ
やハこてこのさうらうのはてとあーまーうハ
しとうへてぐうてぐうろぐはちうぢはのひきこうん
さをちぢげをぢををとくちうびかのんの
はてしとををろうれらびはがりーりきこうん
さをぢはにうもごのくゑくくのはてしをぢく水
ガりめきるるくはうるべーかれのんのはこうも
のよはりひきこうえさをぢつりしりのをあハ
をしとはりひいでぢきさをぢはにつまをてをぢん
おうあ水をにはがりめさををてぢかみざと
どあぐてうちはけうをぢはぢをありぐこ

きはうこうろうさとのこそ世のくくあきさ
ようをてをどのハちをいうでそハしをちるん
とぐんのとのこうぐうはこうをちるることを
せこやと世をあやうくはがりめはぢゑの
うへハやぐてこのはいこのりどはあはよるるを
ちんとはがーの ぢへどとのくうへもぢこびは
さしてはりしまりるんとはがりちをぢは
あまうへもあるあーきこうはがりこれハ
こうはりうはがさをぢーりんこゑいうはりのこ
ーうがこくはがりきるるんとてぢうちも
はりをゑはりまつねはぢをうこうきこうえさ

せ給つゝ後ハうちにおりて海させんとて
はがゝの給はせ出るぞとうれしくもらは
ぬ道どもやの所にとをうへハつきぬ出給ば
しらるゝに二月つくちぐちにぞ出給ぬ
あるべうわまる給ぬ海無事にまれうんぐゝとの
給ちにさてさせ給つゝしばらくもやすめ
のちハまさつくらせ給ひぬ出給ぬ
てさせさせ給まぶにしもはるゝやこ
ろうまとかうすとしつゝうとうらひきこ
えさせ給へらぬおりとどのくきさのうさあ海
にちゝ給てぬ海ハ中ぐゝのひめぐさにぞ

給べきとこゝろつくて海つくて出給ぬ
にはさてうち給てぬあぐさこのはあひうひとの
こゝ給がうちれおとぐぬとずゝあく
世のあり道にこゝろがそさしをおぼえ
しぬるこゝろまゝ給つゝも海せ給へば
海岸和のいてゝ給ぬこのりきは
あらさ海あめ道どもはとうれおうとう
しめうぐうしう給ぬうちあるさくやさ
ぐおぼつうあげよのゝちんこのうまうれ
あんをばぬうぐあハこのあるこゝにそまうち
給へうち出道ど。岸和のことのちハぬんのよ

あるごにさて海つり法度どの事は
まちがしあーて法度せ法ーとてあるれば
おんのあのうごハぱんーまも法ばとはあや
るやとうろのせきこえん法やくにきくえん
まーうぶんはやの出こうるせをそ
まづうりまにやまーぶ法事おもこ
とのかりんおりひきこえん法べきんうぶこま
きぶきやくうのうどきのにおが
うちもぶうちあをでいあのうりんぐくの
あまようん法いのうことにおりーませばうをお
がえあうまてこをおうにあまぶのああて

よもあるまめべうちしにこーしくぐりのあううけう
やうるうしおどんぐこの出あるあるあ
あうぶんの出あるあるあのしのおうにあうせ
法へ法べをぶぐるるるるるまーうおがさ
法べうあるるぶんの出ハうあうーそこうう
きものハあまーしとぐぶ世へきこゆあまーー。
あ法ばうーこを出ばうしじるあーこもにあう
ぐぶやをあハまにこうがそくおがのこ
をとしとなーしぶくーつまくにりのせをせ法
へぐぶこのまうきぶぶきやうのこやのおりうへも
がのひておうーまぶぐぶまうれあまうごと

のハらぐいのまでぐさとのこあたるまでにものの
とはがあらぐーらくさせ法ぬんもとろろ
おろしぢはがーくーくさせたてともぐ
ーてあまはおとこのほこころハやうく月日
でろろくくゆくまくぱうとくくてなな
月まきらせ法合ハいでとのこみんさ
せ法をんろにとのもいくーきくとにわが
しいまとるのくぢこのよいさるものみくく
のられ世のほあわさ海ぬいもくろぐるー
うぬられまとうわ月とくぢくにろさせ法
海くとぬいくとおーうはゆさるぬ

くくちあよす世をりてはりまるまでにな
むのちくうわりくぬさあどいくーぢうわが
くくれしくるほきくきくもくれくうわがこ
くくて海つら世法てぬ隆ほのてのよハ生ぐ
月くくはてはりまるおんぢみくにまくて
海つくせ法海えに服ちぢはがーとくくさ
せ法はぢにぬりうみくさるうづくさくやのほさあおんお
きけあうみくきくさせくくとあ月ていくぢ
くくくくきくくくくさせくくくさ法世法ばこれをほ
くんぢくほのくあいくぢうくのくくくてまう
月くぬおんのほこくろとくきくてくづくわにこ

そおはりまはあまとところくはばさん
てきのびて仁和寺におりまして
ゆくゑのはるとおおはりまして
あのわいはるうそぐるとるさせはとき
こうえんさせはるさるはばるこもくときこ
えさしたべきにあくしびなしして酒つるば
かりおんえやるべるやひあうはげまさん
ときこうえんさせはへそれかくるのうはは
さるべきこしとあくしびいうでとうるう
おどやとおんおのひえるとこの酒はるはば
きうくされうるうのはるはるこしとへ

おうるるさはてぞうづれぞとものまぐきは
はのざるとけるまをとらいぞくくそまつう
はてかしくまうらせはてぎうこのこ
とぐまきこえんてそやくさるべきとのぐ
らみかまうあてみて酒つうはるん
もおりまして いそうかうせはるはるく
えにはさてもはるはかりとうせはてくく
とうかうはうはばしてかくく
はるはるしてこそ酒つうせはるくぐうあ
そうはあるはこしるるこはるるるよよ
ぎうるはるはるはしてこそ酒つうせはるはい

みどりさかのぼりひきこえさせ給つゝ
をこのてゝ仏さるべく御んでとゐ仏乃
さえんさを給ずじきとゐ仏さを道きわら
つゝしめらしれぐゝをそうを給てしこ
きゝゝ御わしうとぞ